

欧州ICTレポート

ICTなどの成長産業におけるスタートアップの重要性については言うまでもない。伝統的大企業が経済に比較的大きな位置を占めているとのイメージを持たれがちなフランスにおいても、急成長を遂げる7%の新規企業が新規雇用の58%を創出しているとのデータがあり、スタートアップに対する政府の期待は大きい。

フランス政府がスタートさせた「フレンチテック(French Tech)」は、スタートアップや、関連する研究開発センター、ベンチャーキャピタル、メディア、公的部門等の連携を促す仕組みである。フレンチテックという名の組織体があるわけではなく、これらの目的でフランス政府により実施されるイニシアティブ又はプログラムの総称(ブランド)である。

フレンチテックの戦略は、以下の3つである。
①仏国内における都市を中心とした多様なネットワークの構築(federate)、②スタートアップの成長の促進(accelerate)、③フレンチテックの国際的な促進(promote)。

フランス国内においてフレンチテックを促進するため2種類の拠点が置かれている。1つは、大都市を中心とした、起業家、地元企業、市当局等関係者のネットワークである「エコシステム(French Tech Ecosystems)」である。現在、13の都市がエコシステムに認定されている。もう1つは、アルザス、アンジェなどの主に小都市圏において、バイオ、IoT、文化等特定のテーマに特化したネットワークである「クラスター(Cluster)」である。いずれも、地域ごとに、企業、市当局などの関係者が協議会などを作り、アクションプランを設けて活動を展開している。

また、フレンチテックでは、スタートアップの支援をフランス国内にとどまらず国際的なレベルで展開することが重要視されている。国際展

スタートアップに注力する仏政府

岡本成男

開といった場合に、(a)フランスのスタートアップの海外進出と、(b)外国籍のスタートアップのフランスでの活動促進の2つの側面があるが、フレンチテックでは両面に係る枠組が設けられている。

(a)のための枠組が、「フレンチテック・パス(Pass French Tech)」と「フレンチテック・ハブ(French Tech Hub)」である。前者は、資金調達、国際展開、IPR等に係る支援をフランスの諸公的機関が実施するプログラムの総称である。また、後者は、仏スタートアップ企業が海外進出を、その進出地域で支援するための拠点。世界各地、例えば、サンフランシスコ、イスラエル、モスクワ、バルセロナ、ケープタウン、香港などに開設されており、順次拡大される予定である。日本のフレンチテック東京は、2014年10月のヴァルス首相訪日時にスタートし、在京フランス大使館を中心に、仏スタートアップと日本の投資家等のマッチング活動を行っている。

また、(b)のための枠組である「フレンチテック・チケット(French Tech Ticket)」は、外国籍のスタートアップ企業の仏国内への進出を支援するもの。海外起業家が参加するビジネスプランのコンテストを行い、入賞した起業家は、1万2500ユーロ×2回の事業に対する助成、2万ユーロの滞在費に係る助成、仏滞在許可の迅速な発行、メンターやヘルプデスクの利用等の支援を受けることができる。2015年に実施されたコンテストでは、23の外国籍スタートアップ(50人の起業家)が入賞、彼らを招き大統領官邸で授賞式が行われた。

米シリコンバレーのような民間主導のシステムとは異なる、政府と民間とのパートナーシップを重視したフランスの政策は、我が国への示唆にも富んでいると思われる。

※本稿は、筆者の個人的見解である。

※本コラムは欧州在住の各氏によるリレー連載です。